



HEART to HEART tea time information

HEART to HEART

『妊娠にたどり着くまでの道程』

(Sさん)

"子供が出来ない位ならもう生きている
意味がないだめ人間" そんな風に自分
を追い詰め、殻に閉じこもる日々



20歳の時子宮内膜症で左の卵巣を全摘し、その後右も卵巣嚢腫にて三回の手術をしました。この状態では子供を望むのは難しいかも、との診断を受けていたため、結婚後直ちに不妊治療を始めました。24歳でした。

本格的な治療をA病院で始め、最初から体外受精でいきますと言われました。私の内膜症はとてつもなく、お腹の中は癒着だらけ。残された一つの卵巣もやっと何とか頑張っているといった感じでした。どんなに注射に通っても通っても採卵の際に卵は取れず…そんな甲斐のない治療の繰り返して通院は苦痛となっていきました。周りの事など考える余裕を無くし、私だけがなぜこんな辛い思いをしなくちゃいけないのかという思い、さらにはパートナーへの思いやりの気持ちも薄れてしまい、子供が出来ない事が理由でとうとう離婚となってしまいました。

離婚に至ってしまった事はショックでしたが、不妊治療から解放される事は正直ほっとした気持ちもありました。もう辛い辛い思いをしなくてもいいんだという安心感みたいなものもありました。しかしその間にも私の内膜症は進行し、生理の時以外でもお腹が痛くなり座薬でしのぐ有り様。

痛みは私の気持ちを、“子供が出来ない位ならもう生きている意味がないだめ人間” そんな風に追い詰め、自分の殻に閉じこもらせるような日々に変えさせていきました。さすが私の姿を見かねた両親には、子供を持つ人生はあきらめて違う将来を考える様に幾度も諭されました。

いつもより強い痛みに襲われ、どうしても耐え切れず診察を受けたある日、担当の先生からこんな言葉を掛けられました。

『子供が欲しいなら痛いのを我慢する、そうでなければ子宮と卵巣を全摘して楽になる、あなたにはこのどちらかしかありません』この痛みからすっきり解放されたい、でもそれと引き換えに子宮も卵巣も取るなんて…。こんな究極の選択、あり得ない! とことん落ち込んだ底の底で、私はこんな考えに辿り着きました。“全摘なんかしたら、今まで頑張ってきた事が無駄に終わっちゃう、それじゃあんまりだ。どうして子供をこの手で抱く事は諦められない。まだ少しでも希望がある事を信じて、あの有名な諏訪マタへ行ってみよう”と。

『ここ来てくれたからには絶対に子供を抱かせてあげるよ。あなたにとって最後の病院になるようにしましょう』その言葉に診察室で泣き出してしまった

そうして訪れた諏訪マタの初診の日は一生涯忘れられない日となりました。”紹介状も持ってない、もし診察できないと

言われたらどうしよう。診察してもらっても、もう子供は望めませんとここで言われてしまったら、一体これからの私はどうしていけばいいんだろう”…診察を待っている間はまるで裁判の判決を待っているような気分でした。

いざ名前を呼ばれ、内診をしてもらい先生の話聞く時には手は汗でびしょりでした。この日、診察してくれた院長先生は「今までいるんな病院に行つて、今日ここに来てくれた。ここに来てくれたからには絶対に子供を抱かせてあげるよ。ここがあなたにとって最後の病院になるようにしましょう。」そう言われました。体中の力が抜け、今までの緊張と不安が一気に解け思わずその場で泣き出してしまった私でした。

その時、30歳になっていた私は幸いにも再婚のチャンスに恵まれました。しかしこんな体の状態を夫となる人は承知してくれて、あちらの両親は理解してくれるのかという大きな壁がありました。案の定、旧家の長男であり跡取り息子の嫁という立場に、それ相応の覚悟はしていたものの、『治療に専念する事』を第一条件によりやく結婚を許してもらいました。しかし生活が始まって一人前の嫁として中々認めてもらえず、お披露目どころか結婚した事も周囲に隠したままでした。治療している事も親戚には黙っているようにと言われ、親戚の集まりなどで子供の事を聞かれる度に肩身の狭い思いをしました。

諏訪マタでの注射でも中々卵が取れなかったり、やっと取れた卵は受精しなかったりとあせればあせるほどうまくいかなかった

入籍をしA病院後3年のブランクを経て不妊治療の再開。今の卵巣でもう妊娠は望めないかもしれないと言われ自分でも薄々とはその難しさを感じてはいました。しかし諏訪マタならきつとなんとかしてくれる、今度は信頼できる病院、信頼できる先生。そう期待して受けた吉川先生の初めての診察。「何度も手術を繰り返してきて卵巣の働きが弱まってきたから、早くして1年、長くして3年で生理がとまってしまうかもしれない」と言われ、あまりのショックにどこをどうやって自宅まで帰ったか判りませんでした。

まだ31歳になったばかり。時間はあると思っていましたが一気に余裕がなくなりました。そしてここでの注射でも中々卵が取れなかったり、やっと取れた卵は受精しなかったりと、あせればあせるほどうまくいかなかったのです。今までの治療では受精すらしなかったものがここではそこをクリア出来た、本来なら一歩進んだという喜びがあるはずなのに、前の時と同じようなストレスを感じるようになってきていました。

そんな時相談室の存在を知り、予約をして看護師さんとカウンセラーさんと三人でお話をする事ができました。今まで自分の心の中で1人でもやもやしていた事、うじうじ考えてた事の全てを吐き出し、お二人に聞いてもらいました。その日をきっかけに私の治療への向かい合いは随分楽になっていきました。どんなに落ち込んで泣きながら話すような日でも相談室を出る時は笑顔になれる。些細な一言が心の中をふっと楽にしてくれる。今までなら誰にも話せず、帰りの車の中で1人で泣いて1人で空気を振り絞っていましたから。

再婚してから休憩することなく治療を続け、精神的、体力的そして経済的にも余裕がなくなり、次に失敗だったら治療をしばらく休もうと夫と話しをした10回目のチャレンジの時。私達に『奇跡』が起きました。判定日の一週間前から腹痛で入院。判定日の朝から出血し、「あーだめか」と思っていたのに思いがけない陽性反応。しかしすぐ切迫流産との診断で喜ぶ間もなく不安な日々を過ごしましたが、今ようやく8ヶ月になりました。あんなに待ち望んでいた妊娠だったので正直まだ実感がわかりません。エコーを見ても、胎動を感じてもいまいちピンと来ない変な気分です。まだ心のどこかで無事に生まれるかどうか、それまでは安心できないという部分があるのかもしれない。

今お腹に授かったこの子は、決して私1人の頑張りではありません。治療をし続ける勇気をくれた院長先生、吉川先生、心のオアシスの相談室、励ましてくれたスタッフの皆さん、何も文句を言わず治療に協力してくれた旦那様。本当に転院して良かったと心から思いが様に感謝しています。辛かった時、悲しかった時人の優しさに触れ、人に優しくなれるようになった事、思いやれるようになった事。自分1人で頑張っていたような気がしてたけど私はいつも1人じゃないとわかった事。頑張れない時はムリせず休憩も必要。このように私が治療を通して学んだ事は本当に全てが宝物です。3歳の冬、諏訪マタが私の治療の最終病院となりました。限りなく可能性の低かった私の夢を、ここ諏訪マタとの出会いによって叶えることが出来ました。あの時諦めなくて本当に良かった。一度しかない人生です。皆さんにも素敵な奇跡が起きますように…。



〈Kさん〉
今の自分の不安を全て言葉にしてみても自分が一番に望んでいることは何なのか、自分ができることは何であるのかを再認識した

私達夫婦は結婚8年目を迎えました。諏訪マタに通院して7年。その間、仕事と治療の両立ができなかったり、体調を崩したりして通えない時もありました。休み休みではあるけれど私達のもとに赤ちゃんがやってきてくれるのをずっとずっと待っていました。2年前に体調を崩し治療をお休みしていましたが、1年半ぶりに再開をしました。この先後悔しないよう私達にできることを精一杯TRYしてみようと思い体外受精も視野に入れる事にしました。その時に、『こんなお部屋ができたので良かったら』と通されたのがこのとり相談室。何を話したらいいのかと戸惑いましたが、一歩足を踏み入れると、人見知りをする私が見知りもせず、自分でもビックリするくらいいろいろなことを話していました。話を聞いてもらったあと、肩の力が抜け、気持ちがとても軽くなったことを今でも覚えています。それからは、通院の時には必ず相談室に寄り、気持ちを聞いてもらい元気をもらって家に帰るようになりました。体外受精でがんばっていいこうと決意したのに、いざ始めるとなったら身体への負担、費用の事、仕事の事、家の事、いろいろな不安が頭の中でぐるぐる廻って、自分でもどうしたらいいのか

からなくなってしまう時があり、午後の相談室を予約しました。とにかく今の自分の不安を全て言葉にしてみても、それを改めてカウンセラーさんから問い直してもらいました。それにより、自分が一番に望んでいることは何なのか、自分にできることは何であるのかを再認識することができました。その時間のお陰で気持ちは自然と前向きになり、赤ちゃんがやってきてくれるような良い環境を作ろうと思うようになりました。赤ちゃんにとって居心地のよい身体になると思いウォーキングをしたり、食生活に気を付けたり。また、いつ赤ちゃんが来てても良いように部屋を掃除したりと環境を整え、体外受精に望みました。

『たった1個じゃ妊娠しないに決まってる、今回は移植せずに凍結しようか』とマイナスな気持ちになり移植する時間になっても家から出る事ができなかった

体調、受精卵の状態も良かった1回目、妊娠の期待は大きなものでした。しかし、判定日の結果は×でした。その後、凍結した受精卵を移植しましたが結果は出ませんでした。凍結した受精卵も終わり、また採卵からの治療になりました。前回同様、たくさんの卵子ができて、グレードのよい受精卵になってくれるはずと思い挑んだのですが、思いとはうらはらで採卵できた卵子は前回の半分以下でした。そして、移植当日の電話確認では、分割している受精卵は1個であり、分割速度も遅めであることを知りました。結果的に1個になってしまった受精卵。頭の中では、すでに3個を移植するつもりでいた私は、たった1個じゃ妊娠しないに決まってる、今回は移植せずに凍結しようか、などとマイナスな気持ちになっていました。移植する時間がせまっているのに、どうしても家から出る事ができなくなっていました。そして私は泣きながらカウンセラーさんに電話をしていました。

この状況を伝えると、「卵は量より質なんだよ。その一個があなたの待っていた赤ちゃんになるかもしれない。たかが1個じゃない、大切な1個の命なんだよ。」そう叱られ、そして励まされました。電話を置き、泣きながらも急いで支度をし移植へと向かいました。あの時、カウンセラーさんの言葉がなかったら私は移植をキャンセルしていたかもしれない。

そして、迎えた判定日。なんと、その1個の卵が待ちに待った妊娠へつながったのです。今まで一度も経験したことのない喜びを味わうことができました。しかし、3日後には出血し喜びが不安へ転、そしてこれまた初めての入院…。そんな私の気持ちをわかっているかのように、吉川先生は回診ではない日でも、午後の診察が始まる前にひょっこりと病室に顔を出してください、「Kさん、どんな様子？」と声をかけてくださいました。そんな時は本当にうれしくて、心配な症状があればその場で聞きする事も出来て、より一層吉川先生への信頼感が深まったのでした。そのお陰で落ち着いて過ごすことができました。

今回妊娠できたことは、吉川先生はじめスタッフの皆さんが親身になって治療をしてくださったお陰です。心から感謝しております。ありがとうございました。



〈Iさん〉
結婚から10年。希望は何度となく打ち砕かれれあきらめかけて、二人で生きていく事も考えた

「夢は必ず叶う」「念ずれば通ず」というよく耳にするこの言葉を、これほど自分が実感することになろうとは夢にも思っていませんでした。

主人と出会い電撃的に結婚してから10年になります。お互い4人兄弟で、姪もたくさんいたので、私たちも結婚したら、すぐに子供が授かるものと思っていました。30歳目前で結婚したのですぐに子供が欲しかった私達。1年過ぎても授からず、東京の知り合いの病院へ行き、色々検査をしてもらい特に異常ないと。そのうち授かるだろうと、あつという間に2年が経ち今度は同じく東京の不妊専門病院へ行きました。そこでは主人も検査をしてもらいましたが異常なし。なんとか自然に出来ることを望んでいました。

初めて諏訪マタにお世話になったのは、その1年後の平成12年の事でした。その時は内膜症が進んでいると診断されましたが、まだ体外受精には踏み切れませんでした。心のモヤモヤは誰にも相談できずにまた2年の時が経ち今度は知り合いの強い勧めで名古屋の病院へ。年齢も35歳になり、周りも私もあせり始めやっと体外受精に踏み切ったのです。そこで初めて妊娠反応が出て、天にも昇るような気持ちになった矢先に稽留流産。それから5回の挑戦も全て爽りませんでした。同居していた両親からも、注射や薬の副作用による私の体への心配をして、「孫はもういいから治療をやめて欲しい」と頼まれました。遠い所へ通うということも心配のひとつだったので、名古屋からまた諏訪マタへ戻る事になりました。

4年前の吉川先生はちょっと話しにくかったのですが、説明会に出て、先生の熱心さに感動し、ここを最後の病院にしようとして心を決め治療を再開しました。年齢のこともあり、なかなか思うように卵が増えなかったり、取れなかったり、肝心の着床がどうしても難しく、自分の体を責めた事は一度や二度ではありません。毎回結果を聞いては泣き明かし、つい弱音を吐く私に主人はいつも「いつかは絶対できるから、あきらめなくて頑張ろう」と励まし続けてくれました。長男の嫁としてのプレッシャーもありましたが、何よりそんな主人の遺伝子をこの世に残したいという思いが強かったのです。そして、回りの家族や恩人・友人の祈りや励ましに支えられ、ようやく今年の3月に妊娠反応が出て、今は8ヶ月になり、全ての事に喜びと感謝の毎日を送っているところです。

気がつけば結婚から、10年が経っていました。何度となく打ち砕かれ、あきらめかけ、二人で生きていくことも考えましたが、可能性のある限り、あきらめなくて良かった。主人がいつも言い続けてきた「夢は必ず叶う」の言葉を信じて前だけを見続けてきて良かった。

逆境の中でも、いつも物事に感謝の気持ちを忘れず「ありがとう。ありがとう。絶対に授かるんだ」と言い続け、祈り続けてきたことがきっとこの子を呼び込んでくれたのだと信じています。そして説明会の時に「続ければ必ず可能性は高くなります。」とおっしゃった吉川先生の言葉を信じてきました。そして励まし続けて頂いた、相談室やスタッフの皆様が心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



ちょっとお茶でもいかがですか？
日頃皆さんの思っている事やつぶやきをのせていくコーナーです。

✿ T・Iさん

その日、私は残念な結果を聞き、落ち込んだままこのとり相談室のポストにカレテを入れました。これからの漠然とした不安、治療に対する気持ちなど自分でも整理できない気持ちを話していくうちに・・・なぜか「あれ、私、何に悩んでいるのだろう」と思えたのです。吉川先生から何か問題があると言われた訳でもないのに、妊娠しない理由を自問自答し、インターネットをみては、また不安になって。主人の励ましも聞かずに一人で悶々として・・・。なぜこんな風に悩んでいるのだろうとまた悩んだりして・・・。

考えてみると私のストレスの原因は、する必要のない心配の種を蒔いて、せっせと水をやっている私自身にあったのです。そう気づくと、さっきまであんなに重かった体が、嘘の様に軽くなっていくのを感じました。

冷静に考えれば、諏訪マタに転院して、私達夫婦の置かれている状況はとても良くなりました。以前の病院では、『妊娠することは極めて困難で、受精も難しいと思われるので、体外受精をしても意味がありません。高額な治療をして少ない可能性に向けて努力をするより、子供のいない将来を思い描いたほうがいいのではないかと・・・』との理由から、希望した治療さえ受けることが出来ずにいました。

そして、私たち夫婦は祈るような気持ちで諏訪マタに転院することを決めました。諏訪マタでは、体外受精から治療を始めることが出来ました。以前の病院では無理だと言われた事を一つ一つクリアすることも出来ました。それなのに、このとり相談室で話す前の私は、深い悲しみに心を支配されて、治療できる喜びさえ感じる事が出来なくなっていました。

「こんな事いつまで続くのだろう」とため息ばかりついていましたが、人間の生殖可能期間を考えると、良くも悪くも一生不妊治療を続けられるわけありません。その事に気づけたからこそ、治療できる今に感謝して、今しか出来ない不妊治療に頑張ってみようと思います。専門的なことは吉川先生にお任せして、自分にしか出来ない事、ストレスを溜めないようにしたり、運動をしたり、主人と笑いあったり。そんな些細なことですが、我が子の産声を聞くまでは諦めずに頑張ります！！

〈Hさん〉

何か原因が分かっているよりも原因
が分からない方が不安ばかりで辛い

諏訪マタで治療をはじめて一年半、吉川先生をはじめスタッフの方々のおかげで諏訪マタを卒業する事ができました。体外受精をする為に諏訪マタに転院してから、ここまで来るまでに本当に色々な事がありました。

初めての体外受精から続けて4回、陽性反応は出ませんでした。1、2回までは成功率を考えればたまたまかな？と自分を納得させていましたが、3回4回と続くと、私にはこれといった原因がないのに何故？もしかして私には何か妊娠できない決定的な原因があるの？と思ったりもしました。何か原因が分かっているよりも原因が分からない方が不安ばかりで辛い…そう思っていました。そんな不安に押しつぶされそうでいつもこのとり相談室でお話を聞いていただいています。

そんな不安の中5回目で初めて陽性反応を見ることが出来ました。喜んだのもつかの間、妊娠反応の数値が低く流産になるだろうというお話でした。覚悟はできていましたし、なんととってもこのままずっと妊娠できないのではないかと考えていた私には流産という結果にはなってしまいました。妊娠できる体だと証明された事、初期の流産は受精卵の方に原因があると説明を受けたので悲しかったけれどこれからの希望に繋がるものでした。

そして次の治療でまた陽性反応。2度続けての流産の確率はかなり低いので今度こそ順調に進むと思っていました。しかし赤ちゃんは育たずに心拍が止まりまた流産となってしまいました。2度目という事もあってショックが大きく、私のせいではなく受精卵の問題と言われても何がいけなかったのだろうと自分を責めてばかりで精神的に不安定になって体調を崩したほどでした。

心の傷が少しずつ回復してきた時に次の治療を受け3回目の陽性反応が出ましたが今度は子宮外妊娠でした。手術前は痛みが酷くバタバタしていたので何も考える余裕がなかったのですが、入院中ベッドに一人で寝ていると、子宮外妊娠ではこのまま育つことはないと分かっているだけでも、心拍が見えて頑張っていたのに手術してしまった事が悲しくて悲しくて自分を責めてばかりでした。

何の苦労もなく妊娠して当たり前のように無事に出産を迎える人が沢山いるのに、妊娠するまでも苦労してやっと妊娠しても3回とも残念な結果になってしまうと、私は子供を産んではいけないのかもしれないと思ったり、ここまで頑張ってきたのだから絶対元気な子を産むまで続けると思ったり毎日そんな事の繰り返しでした。

体が回復してきた時に残りの凍結卵を使って8回目の治療を受けました。この時も4回も続けて成功はしないだろうな～と思っていたら、まさかの陽性反応。もちろん嬉しいけれど、また流産したら…また子宮外妊娠だったら…と喜び以上に怖さがあり診察が怖くて仕方ありませんでした。

その後順調に胎嚢・心拍と確認できましたが、診察を待っている間はいつも大丈夫なのかと不安で不安でドキドキして

ばかりで母子手帳を買ってくるように言われた時には本当に信じられませんでした。おかげさまでその後も順調に育ってくれ諏訪マタを卒業し今は地元の病院でお世話になっています。

もうすぐ5ヶ月になる今でも、今までの事があるので安心できなくて些細な事で不安になってしまい安心できるのは検診で元気な赤ちゃんを見た時だけです。辛い経験を何度もしてきましたので、きっとこの不安は出産するまで続くだろうなと思っています。

私の諏訪マタや他の病院での4年近い不妊治療期間中、いいと言われる事は何でも試してきました。その中の1つに子宝草があります。3年間ずっと育てて子株が出来てからは欲しいという方に分けてきました。不思議と子株を育てて貰っている友人はみんな1年以内に妊娠し出産しています。私だけなかなか妊娠できず、2回の流産、子宮外妊娠と続きました。ようやくここまでくる事が出来ました。

私が育てていた子株をこのとり相談室を通して病院の受付に置いていただいています。もし良かったら育ててみてください。1人でも多くの方に赤ちゃんが訪れるのを心からお祈りしています。